

第8回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会

ジュニアセッションは、次世代を担う高校、中学生に発表の場を提供する、という社会貢献を目的として2015年度春季大会から毎年開催されている。大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待している。

2022年は春季大会がすべてオンライン開催となったことから、第8回日本気象学会ジュニアセッション(以下、ジュニアセッション2022)も、5月20日(金)・21日(土)の2日間にわたりオンラインで開催した。発表形式は、ポスターによる発表に代わるものとしてオンデマンド講演、プレゼンテーションに代わるものとしてZoomによる口頭発表または発表動画のオンデマンドサイトへの掲載とした。

今回は北海道から熊本県までの18校から23件の発表があり、83名の生徒に発表認定証を発行した。発表テーマは、雲や気温など身近な気象に関するテーマだけでなく、地球流体力学や自作観測装置など幅広く、さらに、地域の景観、宇宙天気など、気象学の周辺分野への拡がりを感じさせるテーマが多く見られた。いずれもよくまとめられていて、中高生らしい発表であった。

講演では、一般会員から専門的な視点からのコメントが多く寄せられた。中高生の間でも類似の研究テーマを発表している学校間をはじめとして情報交換が活発に行われた。多くの学校がZoomによるリアルタイム発表を行い、生徒がオンラインでの発表に慣れていることがうかがえた。資料のアップロード作業はやや煩雑であったため、苦勞するケースも見られた。

Zoomによる口頭発表は、接続トラブルもほとんど無く、概ね時間通りに発表・進行することができた。多くの一般会員が参加してくださり、多数のコメントを得ることができた。また、8月19日に開催された

WXBC(気象ビジネス推進コンソーシアム)主催のWXBC版ジュニアセッションに、今回の参加校から6校が参加し、次代を担う生徒たちの取組を知ってもらいきっかけともなった。これは、中高生の素朴な疑問から発した取組を社会に繋げていく、一つのきっかけとなろう。

ジュニアセッション2022は今回で3回目のオンライン開催となった。前回はリアルタイム発表よりも動画掲載が多かったが、今回はほとんどの発表がリアルタイムで行われ、双方向の活動がオンラインでも有効であることを、高校生も理解していることが明らかとなった。

また、今回は交流ツールとして、学会員に提供されたGatherを、ジュニアセッション参加者にも設定し、高校生同士や高校生と学会員の交流を行った。さらに、ジュニアセッション参加者には、21日(土)午後に行われた真鍋先生の特別講演に参加可能とした(アンケートで、生徒・教員含め20名以上が参加したと回答)。

アンケート結果から、ジュニアセッション参加を検討する際に最も大きな制約となるのは日程であることが明らかとなった。オンラインによる発表が定着したことで参加しやすくなった反面、生徒同士の意見交換や交流がしにくくなっている。Gatherに参加した生徒からは意見交換、交流の機会として良かったとの回答が多く得られており、今後、このようなツールの活用も進めていく必要があろう。

ジュニアセッション2022の開催にあたって、文部科学省、公益社団法人全国高等学校文化連盟、日本気象予報士会から後援をいただいた。また、講演企画委員会と大会実行委員会より全面的なご協力を賜った。参加して下さった学会員の皆様と合わせて、ここに深くお礼を申し上げる。